

令和7年度教職員の働き方に関する意識調査 調査結果

1. 調査実施概要

- ①調査期間：令和8年1月7日～19日
- ②対象者：鹿嶋市立小中学校に在職する職員376人
- ③調査方法：Googleフォームにてオンライン回答
- ④回答数：350人（回答率：93.08%）

2. 基本属性について

①校種

① 校種	回答数	割合
小学校	215	61.4%
中学校	135	38.6%
合計	350	100.0%

②教職経験年数

② 教職経験年数	回答数	割合
5年未満	79	22.6%
5～10年	58	16.6%
10～20年	75	21.4%
20年以上	138	39.4%
合計	350	100.0%

③現在の担当

③ 現在の担当	回答数	割合
管理職	38	10.9%
学級担任（特別支援学級を含む）	198	56.6%
担任外（学級担任，管理職以外）	79	22.6%
その他（養護教諭，栄養教諭，事務職員など）	35	10.0%
合計	350	100.0%

Q4 働き方改革の取組により、勤務状況は改善したと感じますか。

- 1 大きく改善した 2 やや改善した 3 変わらない 4 悪化した
5 わからない

Q4 取り組みによる勤務状況の改善	回答数	割合
1 大きく改善した	47	13.4%
2 やや改善した	194	55.4%
3 変わらない	86	24.6%
4 悪化した	5	1.4%
5 わからない	18	5.1%
合計	350	100.0%

【管理職 n=38】

Q4 取り組みによる勤務状況の改善	回答数	割合
1 大きく改善した	8	21.1%
2 やや改善した	29	76.3%
3 変わらない	1	2.6%
4 悪化した	0	0.0%
5 わからない	0	0.0%
合計	38	100.0%

【学級担任 n=198】

Q4 取り組みによる勤務状況の改善	回答数	割合
1 大きく改善した	18	9.1%
2 やや改善した	105	53.0%
3 変わらない	62	31.3%
4 悪化した	3	1.5%
5 わからない	10	5.1%
合計	198	100.0%

Q5 令和6年度と比較して、あなたの時間外勤務はどう変化しましたか。

- 1 大幅に減少した 2 やや減少した 3 変わらない
4 やや増加した 5 大幅に増加した 6 昨年度は勤務していない

Q5 前年度から時間外勤務の変化	回答数	割合
1 大幅に減少した	38	10.9%
2 やや減少した	145	41.4%
3 変わらない	99	28.3%
4 やや増加した	34	9.7%
5 大幅に増加した	15	4.3%
6 昨年度は勤務していない	19	5.4%
合計	350	100.0%

Q6 超過勤務が生じる主な要因についてあなたに当てはまるものを選択してください。
(3つまで)

- 1 学習に関する指導（課外授業など含む）
2 評価や成績に関すること（採点・特別支援における個別の指導計画作成など含む）
3 生活指導・生徒指導（時間外の見回り、家庭訪問。保護者対応などを含む）
4 学校運営（校務分掌）に関すること
5 学校行事の準備や運営
6 事務・報告書作成（調査回答など含む）
7 PTA・地域・行政・関係団体への対応
8 部活動指導

Q6 超過勤務が生じる主な要因(最大3つ) n=350	回答数	割合
1 学習に関する指導（課外授業など含む）	111	31.7%
2 評価や成績に関すること（採点・特別支援における個別の指導計画作成など含む）	156	44.6%
3 生活指導・生徒指導（時間外の見回り、家庭訪問。保護者対応などを含む）	173	49.4%
4 学校運営（校務分掌）に関すること	134	38.3%
5 学校行事の準備や運営	99	28.3%
6 事務・報告書作成（調査回答など含む）	143	40.9%
7 PTA・地域・行政・関係団体への対応	41	11.7%
8 部活動指導	51	14.6%

【小学校n=215】

Q6 超過勤務が生じる主な要因(最大3つ)n=215	回答数	割合
1 学習に関する指導(課外授業など含む)	74	34.4%
2 評価や成績に関すること(採点・特別支援における個別の指導計画作成など含む)	102	47.4%
3 生活指導・生徒指導(時間外の見回り, 家庭訪問。保護者対応などを含む)	106	49.3%
4 学校運営(校務分掌)に関すること	94	43.7%
5 学校行事の準備や運営	63	29.3%
6 事務・報告書作成(調査回答など含む)	90	41.9%
7 PTA・地域・行政・関係団体への対応	25	11.6%
8 部活動指導	1	0.5%

【中学校 n=135】

Q6 超過勤務が生じる主な要因(最大3つ)n=135	回答数	割合
1 学習に関する指導(課外授業など含む)	37	27.4%
2 評価や成績に関すること(採点・特別支援における個別の指導計画作成など含む)	54	40.0%
3 生活指導・生徒指導(時間外の見回り, 家庭訪問。保護者対応などを含む)	68	50.4%
4 学校運営(校務分掌)に関すること	40	29.6%
5 学校行事の準備や運営	36	26.7%
6 事務・報告書作成(調査回答など含む)	55	40.7%
7 PTA・地域・行政・関係団体への対応	16	11.9%
8 部活動指導	50	37.0%

Q7 現在、あなたは児童生徒と向き合う時間は十分に確保できていると感じますか。

- 1 確保できている 2 どちらかというと確保できている
 3 どちらかというと確保できていない 4 確保できていない
 5 児童生徒と直接関わる業務に携わっていない

Q7 児童生徒との時間の確保状況	回答数	割合
1 確保できている	65	18.6%
2 どちらかというと確保できている	186	53.1%
3 どちらかというと確保できていない	66	18.9%
4 確保できていない	9	2.6%
5 児童生徒と直接関わる業務に携わっていない	24	6.9%
合計	350	100.0%

【小学校 n=215】

Q7 児童生徒との時間の確保状況	回答数	割合
1 確保できている	42	19.5%
2 どちらかというと確保できている	117	54.4%
3 どちらかというと確保できていない	34	15.8%
4 確保できていない	7	3.3%
5 児童生徒と直接関わる業務に携わっていない	15	7.0%
合計	215	100.0%

【中学校 n=135】

Q7 児童生徒との時間の確保状況	回答数	割合
1 確保できている	23	17.0%
2 どちらかというと確保できている	69	51.1%
3 どちらかというと確保できていない	32	23.7%
4 確保できていない	2	1.5%
5 児童生徒と直接関わる業務に携わっていない	9	6.7%
合計	135	100.0%

Q8 所定の勤務時間の中で教職員としての専門性（授業づくり，指導，支援等）を十分に発揮できていると感じますか。

- 1 十分に発揮できている 2 ある程度発揮できている
3 あまり発揮できていない 4 発揮できていない

Q8 勤務時間内での専門性の発揮状況	回答数	割合
1 十分に発揮できている	38	10.9%
2 ある程度発揮できている	238	68.0%
3 あまり発揮できていない	65	18.6%
4 発揮できていない	9	2.6%
合計	350	100.0%

【小学校 n=215】

Q8 勤務時間内での専門性の発揮状況	回答数	割合
1 十分に発揮できている	24	11.2%
2 ある程度発揮できている	146	67.9%
3 あまり発揮できていない	42	19.5%
4 発揮できていない	3	1.4%
合計	215	100.0%

【中学校 n=135】

Q8 勤務時間内での専門性の発揮状況	回答数	割合
1 十分に発揮できている	14	10.4%
2 ある程度発揮できている	92	68.1%
3 あまり発揮できていない	23	17.0%
4 発揮できていない	6	4.4%
合計	135	100.0%

Q11 超過勤務勤務を縮減するために、あなたの学校で必要だと思うことを選択してください。（複数選択可）

- 1 学校行事の廃止を含めた見直し
- 2 業務の整理・統合による効率化
- 3 会計処理業務の効率化（ネットバンキング活用など）
- 4 「部活動の運営方針」の遵守
- 5 放課後の部活動時間の短縮
- 6 土日や祝日の部活動時間の短縮
- 7 複数顧問の配置による交代制での部活動指導
- 8 ICTの活用（教材の共有など）
- 9 県等からの調査や会議等の縮減
- 10 保護者や地域との連携強化（役割分担の明確化）
- 11 学校を支援する人材の確保（部活動指導員・学校支援ボランティアなど）
- 12 事務職員を含めた役割分担の見直し
- 13 個別の指導計画等の作成の効率化（特別支援）
- 14 連絡帳記入の工夫

Q11 超過勤務縮減のために必要なこと（複数回答） n=350	回答数	割合
1 学校行事の廃止を含めた見直し	144	41.1%
2 業務の整理・統合による効率化	218	62.3%
3 会計処理業務の効率化（ネットバンキング活用など）	77	22.0%
4 「部活動の運営方針」の遵守	24	6.9%
5 放課後の部活動時間の短縮	41	11.7%
6 土日や祝日の部活動時間の短縮	29	8.3%
7 複数顧問の配置による交代制での部活動指導	27	7.7%
8 ICTの活用（教材の共有など）	57	16.3%
9 県等からの調査や会議等の縮減	190	54.3%
10 保護者や地域との連携強化（役割分担の明確化）	71	20.3%
11 学校を支援する人材の確保（部活動指導員・学校支援ボランティアなど）	164	46.9%
12 事務職員を含めた役割分担の見直し	56	16.0%
13 個別の指導計画等の作成の効率化（特別支援）	87	24.9%
14 連絡帳記入の工夫	26	7.4%

【小学校 n=215】

Q11 超過勤務縮減のために必要なこと（複数回答）	回答数	割合
1 学校行事の廃止を含めた見直し	94	43.7%
2 業務の整理・統合による効率化	135	62.8%
3 会計処理業務の効率化（ネットバンキング活用など）	46	21.4%
4 「部活動の運営方針」の遵守	2	0.9%
5 放課後の部活動時間の短縮	0	0.0%
6 土日や祝日の部活動時間の短縮	4	1.9%
7 複数顧問の配置による交代制での部活動指導	2	0.9%
8 ICTの活用（教材の共有など）	44	20.5%
9 県等からの調査や会議等の縮減	113	52.6%
10 保護者や地域との連携強化（役割分担の明確化）	40	18.6%
11 学校を支援する人材の確保（部活動指導員・学校支援ボランティアなど）	102	47.4%
12 事務職員を含めた役割分担の見直し	43	20.0%
13 個別の指導計画等の作成の効率化（特別支援）	52	24.2%
14 連絡帳記入の工夫	23	10.7%

【中学校 n=135】

Q11 超過勤務縮減のために必要なこと（複数回答）	回答数	割合
1 学校行事の廃止を含めた見直し	50	37.0%
2 業務の整理・統合による効率化	83	61.5%
3 会計処理業務の効率化（ネットバンキング活用など）	31	23.0%
4 「部活動の運営方針」の遵守	22	16.3%
5 放課後の部活動時間の短縮	41	30.4%
6 土日や祝日の部活動時間の短縮	25	18.5%
7 複数顧問の配置による交代制での部活動指導	25	18.5%
8 ICTの活用（教材の共有など）	13	9.6%
9 県等からの調査や会議等の縮減	77	57.0%
10 保護者や地域との連携強化（役割分担の明確化）	31	23.0%
11 学校を支援する人材の確保（部活動指導員・学校支援ボランティアなど）	62	45.9%
12 事務職員を含めた役割分担の見直し	13	9.6%
13 個別の指導計画等の作成の効率化（特別支援）	35	25.9%
14 連絡帳記入の工夫	3	2.2%

Q12 週休日や退勤後において、持ち帰りを含む業務をどの程度の頻度で行っていますか？

- 1 ほぼ毎日（週に5日以上）
- 2 頻繁にある（週に3～4日程度）
- 3 時々ある（週に1～2日程度）
- 4 たまにある（月に1～2日程度）
- 5 ほとんどない（全くない、または数ヶ月に1回）

Q12 持ち帰り業務の頻度	回答数	割合
1 ほぼ毎日（週に5日以上）	29	8.3%
2 頻繁にある（週に3～4日程度）	52	14.9%
3 時々ある（週に1～2日程度）	84	24.0%
4 たまにある（月に1～2日程度）	87	24.9%
5 ほとんどない（全くない、または数ヶ月に1回）	98	28.0%
合計	350	100.0%

【小学校 n=215】

Q12 持ち帰り業務の頻度	回答数	割合
1 ほぼ毎日（週に5日以上）	19	8.8%
2 頻繁にある（週に3～4日程度）	32	14.9%
3 時々ある（週に1～2日程度）	54	25.1%
4 たまにある（月に1～2日程度）	52	24.2%
5 ほとんどない（全くない、または数ヶ月に1回）	58	27.0%
合計	215	100.0%

【中学校 n=135】

Q12 持ち帰り業務の頻度	回答数	割合
1 ほぼ毎日（週に5日以上）	10	7.4%
2 頻繁にある（週に3～4日程度）	20	14.8%
3 時々ある（週に1～2日程度）	30	22.2%
4 たまにある（月に1～2日程度）	35	25.9%
5 ほとんどない（全くない、または数ヶ月に1回）	40	29.6%
合計	135	100.0%

Q13 働き方改革について、日頃感じていることや意見があればご記入ください。

(自由記述)

(傾向)

自由意見上位 3 位 業務過多 (23%) /働き方改革実感なし (16%) /人員不足 (14%)

自由意見では、教職員の負担の主因は「人員不足」と「業務量過多」に集中しており、全体の過半数を占めている。アンケートや調査などの事務業務についても、削減を求める声が挙がっている。働き方改革については、時間管理の面では一定の進展がある一方で、業務量自体は減っておらず、実感につながっていないという指摘が多数見られている。

【小学校 81 件】

アンケートの依頼がとても多いです。ICT が活用されるようになり、手軽にできる反面、様々なアンケート自体の数が増えたように感じています。
子供たちの安全な生活、学習環境の確保を最優先に考えると、人が足りない状況である。自分の業務は時間外か週休日にやらざるを得ない。校庭の除草作業は、予算・時間もなく何とか改善していただきたい。
提出物の削減、公開授業等の縮小、出張の縮小など出来ることから進めていく
家庭（保護者）への電話連絡が必要（生徒指導上、不登校等）な場合（丁寧な対応、早期対応等の理由）が多く、教職員の退勤時間を過ぎた時間帯でないと保護者の仕事の関係で連絡がつかない。丁寧な対応・早期対応と働き方改革のバランスが難しいと感じている。
人材の確保が第一であると思う。そのためには、安心して働ける職場の雰囲気、同僚性が大切であると考えている。職員が働きやすいな、この職場がいいなと思ってくれるような雰囲気づくりに努めていきたいと思う。
職員を増やす取組が必要だと思います。
学校の環境整備に関しては何とか工夫したい。草刈りや修理・修繕等、現在の職員数では無理がある。保護者・地域のボランティア協力を得るにしても、回数に限界があるし、職員の休日対応が増えてしまう。
①校務分掌に線引きできないものとできるものがあるため、気付く人、やれる人の負担が大きくなる。②産休・育休・療休等を取りやすい環境を作りたいが、補充があるわけではないので、誰かの負担になることが苦しい。（学校だけに限らないが）
時間の短縮化だけではなく、働く質の向上にシフトチェンジしたほうが良いと思う。
超過勤務前提の登校時刻、研修会などを根本的に見直さなければ、改善は見込めないと思います。また、超過勤務時間に対して、適正な報酬を払う制度を確立していただきたいと思います。教員の善意に頼ることは、限界にきています。
学校教育の情報化をより進めていきたいと感じています。

<p>学校規模にかかわらず，同じだけの業務をこなしていくには，どうしても時間がかかる。また，小規模校とはいえ児童の主体的・協働的な学習の充実や生徒支援を「チーム学校」として取り組むには，教員同士の相談準備，地域・保護者との連携等が不可欠である。それを，少ないスタッフでいくつもの案件を掛け持ちで行うしかない現状がある。</p>
<p>働き方改革で改善された業務もあるが，新しく増えた業務もあるため，結果としてあまり変わらない。</p>
<p>AIを活用した業務の効率化が見られるようになってきた。</p>
<p>とにかく多岐にわたることがシーフォースから届く。ここから減らしてほしい。 また，思い切って大きな何かを無くす必要がある。その何かは学校判断だけではできないことだと思います。</p>
<p>校務分掌で特別支援教育を担当していますが，保育園，幼稚園，中学校，特別支援学校，放課後デイサービス，市教育センターなどのいろいろな機関と連携したり，配慮を要する児童生徒への対応，保護者への対応など，主に一人で担当することが多く，多忙です。また，県教委や市教委からの調査やアンケートが多いです。事務処理等が多く，児童生徒の教育がおろそかにならないかどうかいつも心配です。</p>
<p>今年度は，校内人事のバランスが悪く負担が大きかった。</p>
<p>保護者が提出しなければならないものを期日までに提出しなかったり，個人面談の日時を自分の都合だけで変えたいとやってきたりすると，再準備や再調整など手間がかかってしまう。保護者の指導まで担任がするのは大きな負担になっている。</p>
<p>働き方を改革するために，どうするかを考えることを委ねられてしまうのが何よりの負担だと感じています。授業準備や，自分の研修に充てる時間が必要なのに勤務時間内にはどう考えても処理できない量の調査・報告が多いです。</p>
<p>アンケート調査などがとても多く感じます</p>
<p>他校と比べようがないが，管理職意識の差があるのか，管理職からの声掛けや職場の雰囲気退勤時間等もかわるのではないかと感じる。本校はとてもいい雰囲気ではあるし，自分を含め専任職がいることでサポート体制もある程度取れていると感じる。ライフワークバランスを取るために，プライベートについて，管理職の理解があると時間休や年休も取りやすい。「子どもの行事は，いってあげないとね」という管理職の声掛けで，職場でも「マラソン大会どうだった？」といった会話が生まれると思う）それによって，プライベートのことも，ためらいなく話せる雰囲気が生まれ，自ずから職場のチーム意識が強まると思う。「学校は大丈夫。気にしないで，やっておくから」等）また，一部の教員にだけ，業務の比重が高い場合もある。それぞれ得手不得手はあるが，偏りなくその教員の良さが活かせるように業務が分配できる管理職のマネジメント力は必須だが，人として大切にされている実感をもって業務にあたったりするような心理的マネジメント力ももっていただくことが牽引する立場としては必須だと思う。18時には学校が完全消灯できる未来が</p>

あるといいと感じる。
自分のペースで仕事をしたい。強制的な時間だけ短縮は、より仕事が多い感じがする。各学校の教員の人数を増やしてほしい。 若い先生を守るための方針が、年長者には厳しくなっていると感じる。給料面も同様に感じる。
そもそも定数に対する職員数が足りていないので、業務軽減のためには人員の確保が必須だと思います。
書類が多く、内容が重複しているものも多いため負担に感じている。特に、支援学級では、保幼小・小中連携に関する書類作成を小学校が担うことが多く、様式の簡略化や統一が必要だと感じる。
支援級では、書類が多く内容が重複しているものも多い。保幼小・小中連携に関する書類作成を小学校が担うことが多く様式の簡略化や統一が必要と感じる
働き方改革について現場任せになってしまっているところがあると思う。各学校で行事や業務の削減などは進めてきた。人員不足や予算の不足によるところは現場ではこれ以上どうしようもない。もっと教材研究に力を入れたいのに勤務時間にはできない現状がある。専科を増やしたり学習補助員を設けるなどを進めてほしい。学級数が少ない学校では、一人あたりの校務分掌も多く、担任だけでも精一杯なのに厳しい現状がある。勤務時間内に終わらなかったものを持ち帰って家でやっているのを「時間外勤務が減少している」としてしまっは「働き方改革」とは何かわからない。教員の善意任せではなく、きちんと働ける環境を整備してほしい。
今は担任外だが、担任をすると教材研究の他の仕事がたくさん増えるため時間外勤務が増えることに不安を感じる。
理科や音楽等の専科の職員を確実に配置してほしいです。教職員の人員が不足しています。
子どものためとがんばってしまうから、どうしても時間をかけてしまう業務もある。事務処理や報告書の簡略化などで、工夫をして労働時間を短くできたらいいと思う
無駄な業務が多いと感じています。 児童と向き合いたくても、授業準備、校務分掌、事務処理が多く、時間が取れません。朝早く出勤し、持ち帰る毎日です。 働き方改革が現場には浸透していません。 早く帰ろうと思っても業務が終わらないため帰れません。委員会からの要請、事務処理を減らすか、各学校の教員を増やしてほしいです。
小規模校における校務分掌の一人当たりの割り振り多い。 養護教諭の複数配置基準の引き下げを検討してほしい。
特にありません

アンケートや動画配信など、やることが多いと感じています。

ICT が苦手なので、何をするにも時間がかかってしまいます。

ICT 等の活用により、業務負担の軽減になりました。

勤務時間内に教材研究の時間をもっと確保したいです。

時間外労働時間を申請するにあたり、たとえ月の残業時間が規定の時間を超えていたとしても、管理職に40時間前後になるよう時間数を調整してほしいと依頼されています。結局のところ、いくら月の残業時間を集計しても学校によってはそれが表面化されないところもあると思うので、何のための働き方改革なのだろうと日々感じているところです。

何でもいいので、専科がほしいです。学校ごとによって「いる・いない」というのは、いない学校からするとずるいと感じます。(どうしようもないのも理解はしていますが)

専科教諭の人員の確保，児童生徒数や学校の特色に合わせた教職員数を増やすことが必要だと考える。

指導案の簡略化を県が提案してほしい。

行事の見直し，指導案や訪問の削減など，改善してほしいです。

校内の行事を減らすことが難しいです。さらに会議や研修が多いため、学校全体にゆとりがないと感じます。まずは、自分たちのできることから始めなければいけないと感じています。

養護教諭です。働き方改革と言われるようになり、休みを取りやすくなった印象はあります。しかし、仕事内容も量も変わらず、新たな校務支援ソフト導入により、今までより時間がかかるものもあります。勤務時間内には児童がほぼ絶えずいる状況で、大量の事務仕事が終わりません。特に健康診断の時期は本当に大変です。求められるものはどんどん増えていき、責任の重さも感じます。せめて、健康診断実施時期には事務仕事の補助をいただきたいです。調査関係はなるべく減らしていただきたいです。フッ化物洗口など、本来学校で行うものではない事業はやめていただきたいです。「〇〇教育を行うように」という働きかけがあるなら、やらなくていい〇〇教育も一緒に通知していただきたいです。どの内容も大切だと理解できますが、全て行うことは不可能です。よろしくお願ひします。

学校現場は、毎年ほぼ同じルーティーンで動いているにもかかわらず、非効率な進め方が多いように感じます。人手不足はもちろんですが、そもそも正規の勤務時間内で完遂できる業務量をはるかに超えており、個人の努力でどうこうできるレベルではないように思います。特に、慣例や体裁を理由に削れない業務も多岐にわたります。「必須ではないがやめられない」仕事や目の前の雑務をこなすだけで、一日が終わってしまい、本来大切な授業準備や評価の時間がありません。

例えば、デジタル化されている情報を紙媒体で共有する、決定事項を周知するだけの職員会議、卒業アルバムおよび文集の作成、表計算ソフトにも関わらず手計算が必要な報告書、〇〇スタンダードといった過剰な規則の統一（校則、連絡帳、宿題、掲示物等）、二度

<p>手間の作業（C4thの復命書の提出における日付の修正）など。</p> <p>また、異動のたびに、学校ごとのローカルルールや独自のファイル形式を一から覚え直すのは、大きなロスかと思えます。委員会や事務所主導で、共通のツールや形式を統一していただきたいです。特にC4thを単なる事務処理ツールに留めず、データ管理の共通基盤として徹底的に運用することで、現場の負担を実質的に軽減できるのではないかと考えています。</p>
<p>常に配慮が必要な児童が多いが、人手が不足で対応が間に合っていない状況のため、本来であれば直接児童にかかわる業務に携わっていないはずの職員も総出で対応せざるを得ない。必要な職員数が確保できない状況では働き方改革も進まないと思う。</p>
<p>職員数が足りない。</p>
<p>在校時間ばかりを気にされ、好きなだけ仕事ができないのが、ものすごくストレスです。</p>
<p>学校施設などの修理はいかがすればよいでしょうか。</p>
<p>調査、周知、指導、案内などの文書について、精選の余地があるのではと感じます。保護者に対しては、学校を通して伝えるべきものと、市や県から直接伝えてもらえればと思うものがあります。メール配信で、紙ベースでの負担は減りましたが、学校からの大切なお知らせも紛れてしまうことがあるのではと心配になります。</p>
<p>アンケート等の回答も多くて負担です。細かい雑務が全然減っていない、むしろ増えているのではないかと感じます</p>
<p>アシスタントティーチャーや職員の配置を増やしてほしい。また、出張はなるべく減らしていただくと、子供たちと向き合う時間が確保できると思う。</p>
<p>フッ化物洗口のように新しく導入するものは、教職員の意見を聞いて導入していただければと思います。一部の職員の負担にならないようにと配慮はしていただけてはいますが、結局は一部の職員の負担が大きくなっているため、働き方改革の推進になっていないのではと感じてしまいます。</p>
<p>小学校の担任は、休憩時間も取れずに1日学級にいるため、ほぼ空き時間もない。放課後に事務仕事をしようと思っても、会議などが入ると実質1時間くらいしか事務仕事ができないことが多い。行事などがあると、次の日の授業の準備すら十分にできない。働ける時間が減らされ、業務が減らないのでは、やりようがない。現状をよく調べて改善してほしい。</p>
<p>学校として業務を減らすのは限界があるので、国として業務を削減する方針を示してほしい。</p>
<p>かなり厳しい状況にあると考えています。子育て世代はワークライフバランスを保てない状況です。小学校では教科担任制を進めて行くべきだと思います。</p>

・今までこれが普通だと言われていたことを、どう型を破って改善していくかが大事だと思います。また、専科の先生がいない小学校の高学年の持ち時間が週 29 時間というのは、どう頑張っても勤務時間内で仕事が終わりません。専科の先生を増やしたり、学校内で教科を割り振って専科のようにしたりしていくと負担は軽減されるかなと思います。

・学校内の組織づくりがうまくいっていないと、仕事が特定の職員に偏ってしまうので、そこはしっかりやってもらいたいです。これは管理職と教務主任でないと割り振れません。

・若い先生にも早く帰るよう伝えますが、教材研究をしっかりやらないのはまた話が別なので、そこは指導をしてもらいたいです。

・人員不足が一番大きいです。また、1年の計画は年度当初に出してもらわないと、後から思いつきなのか、急にこれをやれと提示されても動けません。早めの起案、伝達が有り難いです。

・働き方改革で本当に早く退勤するためには、教材研究を1番に、その他の調査等をなくしていくことも大事だと思います。何でもかんでもやれでは、パンクします。ICT 支援員さんの勤務日数が大幅に減ったのに、プログラミング等はどんどん推奨され、手が回りません。教育にかける予算を削らずに、ぜひ ICT 支援員制度を減らさずをお願いします。

教職員の増員が難しいのであれば、アウトソーシング可能な分野のガイドライン作成並びにそれらの予算整備、さらには保護者、地域への情報発信

出張を減らして、学校で落ち着いて勤務させたい。夏休みの作品提出をすべてなくしてほしい。学校から〇点という形を廃止して、すべて希望制にしてほしい。

朝の校門を開ける時間と、教員の勤務時間の開始時間のギャップから生まれる教室の安全管理のための人員の確保をしてほしい。

実感がありません。

時間外勤務について意識しているが、業務は多いままなので、非常に大変な状況は変わっていないと感じています。

業務を効率的に行っていきたいと思います。

生徒指導や授業準備で先生方が仕事をしている中校長、副校長だけ年休を好き勝手つかたり定時退勤をしているのは疑問を感じる。

このアンケートも含めて、調査物が非常に多い。縦割り行政の弊害で、数値だけを帳尻合わせるために、調査している感じがする。現場の実態に即した、実のある働き方改革が必要。

定時で帰ることが当たり前で、早く帰れること=仕事が少ないという考え方にならないようにしていけたらよいと思います。

やらなければいけないことは変わっていない（逆に増えていることもある）ので、何が働き方改革になっているのかわからない。

<p>学校行事が効率化されていないので改善してほしい。授業参観や個別面談が多すぎるので、改善してほしい。効果のない研修の見直しもしてほしい。</p>
<p>県立の高校の部活動に対しての教職員の負担が大きすぎると感じている。</p>
<p>講演動画がやたら増え、それを見なければならぬと指示され、費やす時間が膨大で時間外で見る形になっている。これは、とても苦痛である。</p>
<p>小規模校であるため全体の人数が少なく、教職員一人ひとりが担う業務が多く、負担が大きい。</p> <p>低学年の市の弾力化の廃止や会計年度職員の削減で、負担増となっており、学力向上の課題の一因にもなっていると考えます。</p> <p>また、療養休暇や産休関係補充の職員もままならない時期もあり、一部職員及び全体の職員の業務が過多とならざるを得なかった。</p> <p>人材確保、教育予算の確保は、市全体の喫緊の課題であると思う。</p>
<p>無くても良いような無駄な仕事を見直して、それを減らしてほしいと思いました。また、小学校でも、何個の教科は、教科担任を配置しても良いと思いました。また、保護者対応は、別の機関が行ってもらいたいと思います。</p>
<p>仕事の割り振り方と給料がリンクしていないため、できる人の負担が多い。せめてやった仕事に応じて給料を加算できないと仕事のやり損になるのではないかと。</p>
<p>業務に大きな偏りがあると感じています。</p>
<p>勤務時間の中で仕事が終われるようになってほしいです。</p>
<p>無駄な会議や、問題を起こした教職員のせいで日々増えるコンプライアンス研修などに嫌気がさしてきています。</p>
<p>今年度大規模校から小規模校に異動しましたが、小規模校の教員1人あたりの校務分掌があまりにも負担です。また、生徒指導が困難な学年を受け持っており、放課後は生徒指導や校務分掌、研修で追われ、教材研究などの子どもたちに直接関わることに時間を割けません。「昔からやっているから、毎年やっているから」などの惰性で続いている仕事は学校単位ではなく、市町村単位で精査した方がいいのではないかと思います。学校単位だと同市町村で学校によって格差が生まれます。それを今年度すごく感じています。</p>
<p>なかなか目標設定どおりにいかない。</p>
<p>過剰なクレームに対して疲弊してしまう職員が多い。日常の授業準備等に余裕がなく、超過勤務や休日出勤につながってしまう。</p>

昨年度に比べて大幅に勤務時間が超過している。予算がないとの理由で、人的配置をしないことが原因だと考える。教員が心も体も健康でなければ、しっかりと児童に向き合うことができないと考えている。

また、校務分掌の仕事内容を細分化していったり、誰もがわかるようなマニュアルを作成したりすることが仕事が軽減することにつながるのではないか。

専科教員の配置，介助員制度の導入，学習ボランティアなど，色々と改革をしてほしい。

働き方改革といいながら，仕事量は変わらない。終わらないまま帰る時がある

勤務時間外労働をしない意識の向上が必要である。意識が低いことと勤務時間内で仕事を終わりにできるような計画性と効率性を高めることが大切である。

勤務時間内に終わるような業務量ではないかと日々感じています。

【中学校 62 件】

働き方改革が進んだと思ったら，新しくきた管理職によって進んだ改革が白紙になることがある。ただ自分には，まだまだ歴が浅いので，それによって減った業務が正しい働き方改革だったのか，本当は必要なのに削減された業務だったのかが分からないことが多い。

校務分掌よりも経験年数やこの人ならできるという無意識バイアスが強く存在するため，負担がかかる人が偏りすぎている。効率化を図った方が良いのか，適切な校務分掌を作成することが大事なのかは分からないが，これこれらの意見を基に改善にすすことを願う。

職員数を増やさないと，これ以上の時間外勤務は難しいのではないかと思います。

調査アンケートや動画の配信の見る等がやや多く感じる。便利にはなっているが，頻繁にありすぎて対処が難しいことがある。もう少し，考えていただければと思います。

茨城県や地区だけでも，ICT ややり方などがどの学校もそろえられていけるとよいと思いました。

働く時間の意識の話だけ押し付けられて，やるべき内容の中身はあまり変化していないように感じる。根本的に仕事の量を減らしていかないと全体の改善は見られないと思う。

休日の部活動の地域移行など，令和 7 年度末で体制がはっきりと決まると伝達がありましたが，現状として休日も指導を行っている状況です。見通しが立たず，不安を感じます。

働き方改革が進むにつれ，管理職の仕事は増加傾向にあると考える。毎日送付される文書内容の確認作業や様々なアンケートの回答にも時間がかかる。せめて，教育委員会の段階で文書やアンケートの精選を実施していただきたい。まず県全体での働き方改革を進めていただきたい。

生徒，教職員が安全安心に生活できていればよいのだが，時として事故報告書を作成する必要性も出てくる。日頃の生活がしっかりしていれば，プラスの業務を避けられると考える。

<p>学校全体として、県や国の方針を遵守して働き方改革を推進している。しかし、教員定数の改善がないと、これ以上の推進を行うのは難しいと感じている</p>
<p>何か新しいことを始め、効率化を図ることは素晴らしいことだと思う。だがその移行期間がとても負担となったり、やるべきことが増える一方になったりするので、何か始めるときには何か一つ廃止にしてほしいと思う。</p>
<p>働き甲斐を持っている職員は、勤務時間が超過しがち。働き方改革、業務の効率化のもとやるべき仕事もやらない職員もみられる。その両者のギャップが大きい。</p>
<p>給特法改正が進んでいる現状を鑑みると、在校時間の短縮は「やってもやらなくてもいいことではなく、必ずやらなければならないことである」という認識を、全教職員が持つ必要がある。また学校施設は市施設であり、教職員が自由に、勝手に使える施設ではないという認識も重要である。教職員の長時間の勤務が常態化することで、その分、電気・水道等の経費もかさむことになる。その経費を教材やICTドリル等として、児童・生徒の教育に生かしたい。</p> <p>日常の業務がひっ迫している現状は当然分かっているが、教職員の職務の利点は、自らの発想や工夫で時間調整のできる幅が広いということである。「なんとなく続けてきたことは、本当に必要ですか」「現代の教育に合致していますか」等、改めて問い直してほしいと切に願っている。</p>
<p>一太郎ソフトがなくなり、これまでの資料を全部、一から作り直していて、大変時間と労力がかかっている。とてもつらい。</p>
<p>自分の時間確保の推進を図るとよいと思う。上手な時間の使い方や働き方、遊び方、楽しみ方など、すべてこれから社会に出る生徒の模範となり、還元されることなので、積極的に先生としての生き方も学んでいける機会が増えるといいと思う。</p>
<p>人を増やすことが絶対に必要だと思います。</p>
<p>生徒指導が、時間外に取り組みことが、多く負担</p>
<p>働き方改革による部活動縮小は学校内での生徒指導に響き、むしろ働き方改革に悪影響になっている事例もあるので、切り離すのであれば早く切り離れたほうがよいと思います。部活動がなくなって途方に暮れている家庭もあるので復活するなら復活して、教員の手当を充実させる方向に向かうべきだと思います。今の中途半端な状態で部活動業務に携わるのが一番の負担です。</p>
<p>同じようなアンケートや調査が多いと感じます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学校に対して求められていることが多い（市主催の行事や出前講座など） ・県等からのアンケート調査や研修動画視聴が多い
<p>教員がやらなければならない業務とやらなくてもいい業務の線引きをして、やらなくてもいい業務をやらないや外部委託するなど。</p>
<p>PCを活用しているわりには、業務削減にはなっていないように思われる。報告書の提出</p>

やアンケートが非常に多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を守る ・フォルダ整理，ファイル起案様式の統一 ・「よりよくしたい」という自分の思いがあるのはよいことかもしれないが，限られた時間の枠でできるかどうかを含んだ要・不要の判断 ・構想・アイデアはいつでも，実行は勤務時間内に ・ひとつ増やすならふたつ減らす意識 ・金をかけないと時間がかかる ・自分のことは自分で行う
<p>①新しいことを取り入れる際には，既存のものを切り捨てなければならないが，それが曖昧である。「やらなくてよい」ことが明確にならないと，「やらなければ」と思ってしまう。</p> <p>②「コロナ禍の代償」が今，すべての中学校を揺るがしていると思う。当時小学校低学年から中学年だった生徒が今，中学生になり，学習の基礎や集団作りの経験が乏しい。1クラス35人以下になるようだが，それでも多いと思う。中学校では令和7年度から3，4年間がとても大事だと思う，今中学校の指導者を増やして手厚くみてあげなければ彼らの義務教育は終わってしまうと思う。</p>
人を増やさない限り改善できないと思います。現場でできることはやりつくしている感じがします。
やることを増やさない。
新規採用者への配慮（退職させない）があることで，2年目のギャップが大きく，かえってサポートするための期間が長くなったり，仕事を振り分けづらくなったりしているように思う。
早く帰ることが目標だが，業務が終わらずに帰るわけにはいかないというのが現状だと思います。人を増やしたり，業務を削減したりすることが必要だと思います。
ICT化により情報配信ツールが多岐にわたり，確認が煩雑になっている。また，勤務時間短縮により，以前に比べ生徒と向き合う時間が減少しているように感じる。
部活動の地域移行の推進で，時間外勤務の縮減が図られていると感じます。一方で，保護者対応や家庭訪問等，生徒指導面での対応は，相手の勤務時間終了後でなければ応じてもらえず，ほぼ時間外に設定しているのが現状です。また，各種調査物や，提出物の作成は，放課後の部活指導終了後から作成を始めることが多いように感じます。学校教育会全体の意識変革や地域や保護者の意識改革を伴うものなので，一朝一夕には改革はできないと思われませんが，避けては通れない課題だと感じています。

<p>働き方改革は現場任せだなと感じる場面が多いです。働き方改革は個人の能力だという言葉を目にしたことがあります。現在私は週の授業数が 25 コマなので、授業以外の仕事はほとんど勤務時間外に行うことになってしまいます。部活動の活動時間の多くは勤務時間外に設定されています。これは個人の能力なのでしょう。生徒が学校にいる状況で定時を過ぎたら退勤していいのでしょうか。部活動や教材研究は、我々の自主的活動なのでしょう。日々、疑問に思う限りです。</p>
<p>教材研究まで含めると、勤務時間以内に終わるのはほぼ不可能に近いと思います。また、部活動も冬の期間は勤務時間内ですが、夏の時間は超過が前提で行うしかないので、何ともいえません。業務を減らすには限界があるので、手当などで適切な勤務にしてほしいです。</p>
<p>運営部（事務局）への会計事務、外部・保護者対応等の集中化とオンラインによる連携 特にありません。</p>
<p>研修や調査が多い。やるべきことがありすぎて、時間に追われている気がする。</p>
<p>会計事務等は事務の先生を多く配置することで専門化していただきたい。また、時短勤務の先生が増えることはよいことだと思うので（その分育休後復帰しやすくなる環境が整うため、人員は多くなるのではないかと思う）その際に対応できる人員の確保があるといいと思う。アンケートが多いので、情報がある程度共有されたらよいのではないかと思う。</p>
<p>独身の時よりも仕事にかけられる時間が減っているのに、仕事量は種類が変わっただけで特に減っているわけではない。自分の子供に我慢をさせながら働かなければならない状況にあり、そこが苦しいです。</p>
<p>行政からのアンケートが内容の重なる部分が多い。生徒から、この内容この間やりましたよ。と言われることが多いので、行政のアンケートも精選していただきたい。</p>
<p>小学校専科が、負担です。小学校免許がないのに、専科の教材研究に時間がとられ、中学校の教材研究がおろそかになってしまいがちです。 また、小学校の先生方は、専科を預けるだけで、ご自身では何かしようとしていません。小学校教諭として、教えたことのない教科が存在する事実は、良いのでしょうか？ また、小学校の先生の負担軽減、空き時間を作るために逆にこちらが負担になっています。専科の授業があるからという理由で、中学校の放課後の部活に行けない時もありました。行かなければ、管理職に授業が優先と言われ、非常に苦しい時がありました。 専科で辛い思いをしたことは、一度だけではありません。 もう我慢できません。私は、中学校の教諭として、20年以上働きました。専科はお断りしたいです。</p>
<p>特にありません。土日の部活動が地域移行したことで、負担は少なくなったと感じます。</p>

学習指導要領の内容が変わらなければ、本質は変わらない。
退勤時間や勤務時間超過にばかり目が行っているが、仕事量の削減がなければ、持ち帰りの業務などが多くなる。また、突発的な生徒指導や保護者対応、外部からの苦情の対応など、学校内外（登下校含む）を対応する窓口や対応するしないの線引きをはっきりしていくことも必要だと思います。
アンケート調査などが非常に多い
ICT機器の活用のための研修は使用前に十分に行って欲しい。アンケートは重複せず、効率よく行って欲しい。保護者、生徒の行政上の対応素早く十分な人数でお願いしたい。
特にありません。
部活動改革を進めてほしい。勤務時間外や土日祝日はなくしてほしい。
なかなかむずか唯位と感じています。
見通しをもって仕事に取り組みたいが、計画等が出るのが遅かったり、急な変更があったりするためにそれが難しいことが多い。
平日の部活動も移行したい。中途半端な移行はやめてほしいとの保護者からの意見。
改善されつつあるが、報告書や調査が多く、時間がとられる。
退勤時間を早くするよう呼びかけられているが、業務が減っている感じはしない。
職場が全員で改革を意識しなければ、働き方改革を進めていくのは難しいと感じています。
業務の持ち帰りはほとんどないものの、期日に間に合わせるために休日出勤することがある。締切の期日までに余裕をもたせて提示をしてほしいと思うことがよくありました。
早く帰るのが働き方改革みたいな流れがあり、結局、退勤時間を調整して残業している人や持ち帰って家でやってる人、土日に来てやってる人などが多いと思う。仕事内容が変わらないので、難しいと思います。
文科省や県のアンケート、〇〇教育などの実施のお願い等が増えてきているように感じます。現場だけでなく、全体で見直していけるようになってもらいたいです。
働き方改革が進められている一方で、生徒指導対応、保護者対応、保護者対応、部活動対応など、時間外になりやすい業務の負担は大きいと感じる。その結果、仕事を持ち帰ることも少なくない。特に部活動については、放課後や休日の指導が負担になっており、その体制を見直して欲しいと感じている。
時間給で勤務する非常勤講師こそ時間で終われるよう時間割など配慮していただきたいです。
意識改革が必要だと感じます。

休憩時間の確保（お手洗いに行く時間もない）
生徒からの暴言は我慢しなくてはいけないのか
部活動の短縮化・土日の部活動の廃止
事務作業の移行

改善してきたので大丈夫です

退職したいと思うほど、中堅からベテラン教員からのパワハラに近い言動に悩んでいる。私の進退に関しても勝手に口出され、冬期休暇中に今後について考えたほうがよいのではないかと話された。急にやめられても困るということ。本日も、私の仕事内容に関して一対一で話しかけられた。また、同じ教科のベテラン教員から、連絡事項が未伝達のこと頻繁にある。機嫌のよいときと悪いときの差が激しく、精神的に参っている。生徒からの暴言や授業妨害などもあって疲弊している。もうやめたい。

学年会議が二時間半かかることがある。話が脱線し、ただのおしゃべりの時間になっている。苦痛を感じている。

4~10月ぐらいまでは放課後の部活動だけで、超過勤務になってしまいます。交代制で部活を見る方法もあるようですが、毎日の生徒の変化を自分は見たいです。